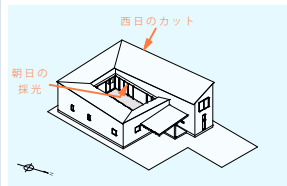


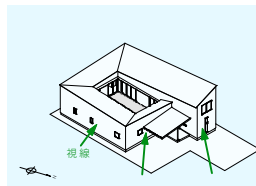


所在地：千葉県旭市
建物用途：専用住宅
主体構造：木造
延床面積：114.36㎡(34.60坪)
設計期間：2013.04～2014.06
工事期間：2014.06～2015.03

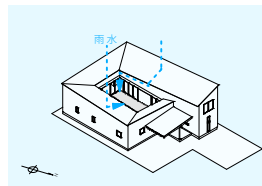
「の」の字形状による5つの効果



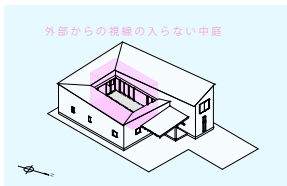
朝日を中庭から内部に取り込み夕暮れの強く差し込む西日はカットし快適な採光を叶える。



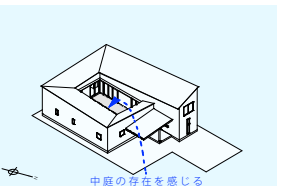
外周部の開口を最小限とすることで外部からの視線を遮断し、不審者の侵入を防ぎセキュリティを高める。



雨水は全て中庭へ流すことで、近隣へも配慮する。



外からの視線が遮られ、プライバシーを守る屋外スペースを作る。



「の」の字形の始点を低く抑えることで、中庭の存在を感じさせる。

断面形状の変化

尻上がりの「の」の字形状は単に外観のためだけのものではない。これによって生まれる天井高の変化は内部空間にも変化を作り出す。天井高を徐々に変化させながら「の」の字に中庭を取り巻くこの構成は、それぞれのスペースが異なった天井高、天井勾配、幅をもち、用途に合った断面形状を作る。

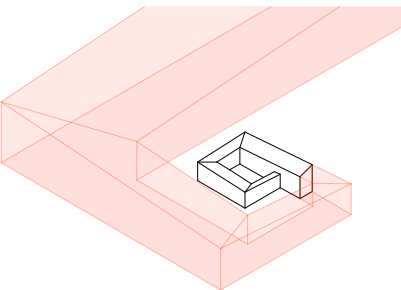


中庭を取り巻く

都市的なコートハウスは外形からボイドを空けて中庭を作り、外部とのつながりを完全に遮断した構成をとる。しかし、今回の計画では前述のような作り方ではない他の方法で、外観からも中庭があることを感じさせるような作りをできないかと考え、中庭を取り巻く「の」の字プランができた。そして「の」の字を、始点を低く抑え中庭を取り巻きながら徐々に高さを上げるような形状とした。

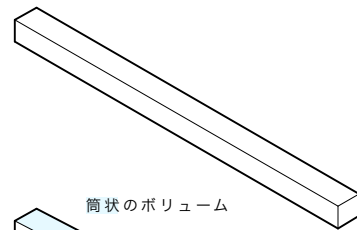
拡張し地域に開く

地域と繋がりがながら施主が安心して暮らせる家を作るため、「の」の字型の形状とした。中庭を取り囲む「の」の字型の住宅が施主の生活を守り、「の」の字が拡張し、地域に開いていく。

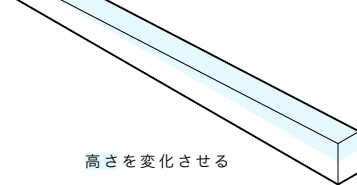


拡張する「の」の字

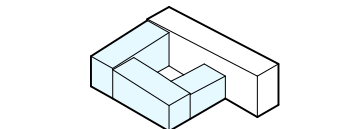
「の」の字形状ダイアグラム



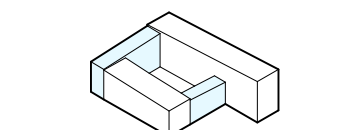
筒状のボリューム



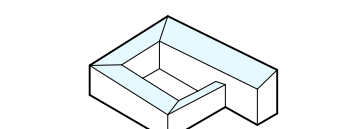
高さを変化させる



敷地形状に合わせ「の」の字に巻く



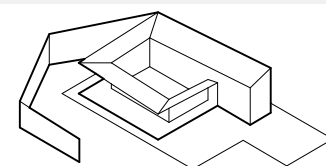
幅を変化させる



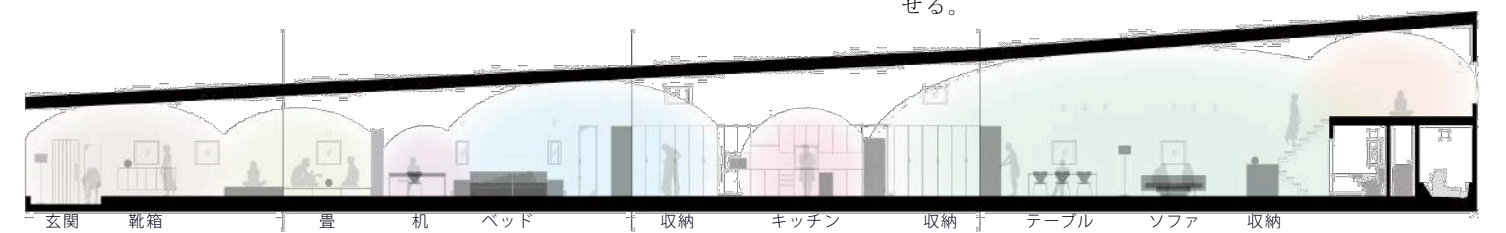
内側へ勾配をつける

連続するスペース

間仕切りのない連続したワンルーム空間だが、断面形状に合わせ設定したスペースに家具を配置することで用途をもった領域を作る。家具、人、光など様々な要因によりそれぞれの領域は伸縮し、そして混ざり合う。



外壁外周部の展開イメージ



外周展開図

内部と中庭とのつながり

中庭を取り巻く平面は、行き止まりのない回遊性のあるフラットなワンルームとした。中庭のレベルを1階床レベルにあわせることで、掃き出し窓から見える中庭までもスペースが広がっていく。中庭を介して見え隠れするスペースによって、空間のつながりをより強く感じさせる。

内観写真

